

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18202018

研究課題名（和文）江戸幕府・朝廷・諸藩の編年史・編纂史料集の史料学的研究

研究課題名（英文）The study of historical materials studies of annals/the editing source book of the Edo Shogunate/the Imperial Court/various feudal clans

研究代表者

山本 博文（YAMAMOTO HIROFUMI）

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：80158302

研究成果の概要（和文）：本研究は、江戸時代および明治時代に編纂された史料集を網羅的に蒐集し、その記事をデータベースとして一般公開すること、蒐集した史料の伝存過程および作成された背景について分析・考察すること、を目的としている。本研究は、従来、交流する機会がなかった異なる分野の研究者が、1つの史実を通じて活発な議論を戦わせる土壌を作り、近世史研究の進展に大きく寄与することになった。

研究成果の概要（英文）：

This study performs collection of a source book edited in the Edo era and the Meiji era cyclopedically and is intended that analysis considers in opening the article to the public as a database, the existing in a legend process of the historical materials that did collection and a made background. The researcher of the different field that there was not of the opportunity to interchange conventionally makes the soil letting an active argument fight through a historical fact of one, and this study will contribute to the development of the modern history study.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	6,900,000	2,070,000	8,970,000
2007年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2008年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2009年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
年度			
総計	24,800,000	7,740,000	32,240,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：朝幕関係・江戸幕府財政・編年史料・天皇皇族実録・日本財政経済史料・東京市史稿・オランダ商館長日記・マルヒナリア

## 1. 研究開始当初の背景

従来、公開されている近世史全般にわたる編年史料集は、東京大学史料編纂所において編纂・刊行している『大日本史料』第12編のみであった。

このような現状を鑑み、研究代表者の山本博文は平成12～14年度にかけて、同所で作成した『史料稿本』の近世部分に、明治期になって編纂された旧大名家の家史を加えてデータベース化し、それを一般公開するという「近世編年データベース」事業に着手した。そして平成16年12月には、同事業のシンポジウムを開催し、その成果を公開している。

シンポジウムの際、近世編年データベースに搭載される予定の史料情報の信頼性について議論があった。たとえば、明治期に編纂が開始され、大正11年に完成した『日本財政経済史料』に載せられた史料に、どの程度の信頼性があるのか、といった点である。それぞれの編年史料編纂の過程で、史料の取舍選択がなされており、当然、疑問のある史料は除かれたと考えられるが、重要な史料でも当該編年史料との関係が希薄であるか、また載せるべきではないと判断されたものも除かれることになる。この議論の中で、それぞれの編年史料集の史料学的研究を現在の歴史学の水準で行う必要性が、あらためて認識されることになった。これが、本研究を始めるに至った重要な動機の一つである。

## 2. 研究の目的

本研究は、近世及び近代に編纂された編年史及び編纂史料集をできるだけ網羅的に蒐集し、そのうち重要なものについては史料学的に研究し、その史料の位置づけを確定させることを目的とした。

近世及び近代に成立した編年史及び編年史料集の史料学的研究は、現在、東京大学史料編纂所において進められている「近世編年データベース」の基礎になるとともに、当該データベースをより正確なものとし、さらに活用するために不可欠なものである。

本研究計画は、入力した膨大なデータを瞬時に検索できるというコンピュータ技術の飛躍的發展を背景にしており、計画が進むにつれて、従来存在は知られていながらなかなか利用しがたかった大部な史料集を時系列的あるいは並列的に検索し、あるいは並列的に並べて相互の関係を探るなど、さまざまな実験的な試みが可能になった。これは、これまで研究者個人の努力によって遂行されていた研究を、一挙に進めることができるとともに、同じ研究分野の研究者相互が情報を共有することによって、単なる事実の発掘にとどまらない発展的な議論が戦わされることになることが期待される。そのような議論を通して、近世政治史の研究は、新たな段階に進むと考えられる。

### 3. 研究の方法

本研究の核となる「近世編年データベース」は、幕府、藩、朝廷、幕藩関係、朝幕関係、幕府外交、幕府財政、都市政策などを主要な柱とし、さまざまな史料から史実を抽出してデータベース化をはかることを目的としている。しかし当面は、近世・近代に編纂された編纂史料集のデータベース化を中心に作業を進めた。

具体的には、編纂史料集に記される綱文をデータ入力すること、綱文がない場合は、史料を分析して新たな綱文を作成し、入力することが中心となる。その作業は、日本史学を専攻する大学院生を雇用して行ってもらい、本所の所員がそれをチェックした。

また、入力作業が終了し、データベース化が完了した史料集から、順次その史料的特質について考察した。

### 4. 研究成果

本研究において得られた成果は、下記の通りである。

- (1) 大蔵省編『日本財政経済史料』は、江戸幕府の財政史を知るための基本史料である。しかし、所収される史料は、租税や土木など部類分けになっており、編年史料としては活用しがたい。そのため、本研究では『同史料』の各項目を、所収史料をもとに綱文に直して編年史料集とし、そのデータベース化・一般公開を完了させた。さらに、所収史料の内容を、特に『向山誠齋雑記』と比較・検討することで、現在では失われてしまった史料を含む貴重な編年資料集であることがわかった。
- (2) 『天皇皇族実録』のデータベース化を完成させ、宮内庁書陵部と合同で史料学的な研究を進めるとともに、一般公開を開始した。

- (3) 『東京市史稿』のうち「市街編」・「皇城編」・「遊園編」・「宗教編」・「変災編」・「橋梁編」・「港湾編」のデータベース化を完了させ、一般公開を開始した。

- (4) 江戸幕府が編纂した外交史料である『通航一覽』のデータベース化を完了させ、史料学的な検討を加えるとともに、一般公開を開始した。

- (5) 『オランダ商館長日記』および「マルヒナリア」の日本語訳を進め、編年史料データベースへの利用が可能かどうかを検討した。

- (6) 国内外において萩藩「遠用物」など編年史料集に活用できる史料を蒐集した。

以上の研究成果を集約し、山本博文編『江戸幕府・朝廷・諸藩の編年史・編纂史料集の史料学的研究』（『東京大学史料編纂所研究成果報告』2009 - 5、2009年3月）として刊行した。同書は、本科研において研究の中核に据えていた『日本財政経済史料』・『天皇皇族実録』・『通航一覽』・「マルヒナリア」などの編纂史料について分析した論考を8編収めている。

本データベースの完成および報告書の出版により、日本近世史研究において容易に史料を編年に検索することが可能になり、研究の飛躍的進展を開くことになった。また、様々な分野の研究者が1つの史実をめぐる議論を戦わせる基礎がより整備されたと考える。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- (1) Oka Mihoko, “The Network of Merchants of Nagasaki and Macao

during the 17th Century-an examination of the investment of silver”, Blussé, L, (ed.), *Canton and Nagasaki Comapred 1730-1830 Dutch, Chinese, Japanese, Relations, Intercontinenta No.26, pp.261-272, Institute for the History of European Expansion, Leiden,2009*

- (2) 松方冬子「近世後期『長崎口』からの『西洋近代』情報・知識の受容と翻訳」、査読無、『歴史学研究』846号、2008年、68～76頁。
- (3) 小宮木代良「大河内松平家本『江戸幕府日記』の引用日記と成立時期」、査読有、『日本歴史』716号、2007年、118～123頁。
- (4) 山口和夫「近世の朝廷・幕府体制と天皇・院・摂家」、査読無、大津透編『史学会シンポジウム叢書 王権を考える 前近代日本の天皇と権力』山川出版社、2006年、219～250頁。
- (5) 松澤克行「天皇皇族実録」の編修事業について、『史境』、査読有、53号、2006年、1～15頁。

[学会発表] (計4件)

- (1) Oka Mihoko, “Foreign Captives in Guanzhou and Nagasaki”, 2<sup>nd</sup> Conference of Canton and Nagasaki Compared, pp.18-19, December 2009, at University of Tokyo.
- (2) Oka Mihoko, “Credit Transaction in the Early 17<sup>th</sup> Century China Sea Trade-focusing on silvers invested in trade”, Maritime Trade in East Asia from the 15<sup>th</sup> to 18<sup>th</sup> Centuries, pp.48-55, November 2009 at Sociedade da História de

Independência de Portugal.

- (3) Oka Mihoko, “Prehistory of the commerce between Nagasaki and Macao: an analysis of the Portuguese settlement in Zhejiang (浙江) in the 1540s”, The 1<sup>st</sup> Congress of the Asian Association of World History, May 2009 at Osaka University.
- (4) 松方冬子「近世後期『長崎口』からの『西洋近代』情報・知識の受容と翻訳」歴史学研究会大会・近世史部会、2008年5月、稲田大学。

[図書] (計5件)

- (1) 山本博文『殉教 - 日本人は何を信仰したのか - 』光文社、2009年、1～251頁。
- (2) 山本博文『天下人の一級史料 - 秀吉文書の真実 - 』柏書房、2009年、1～274頁。
- (3) 山本博文『大奥学事始め』日本放送出版協会、2008年、1～256頁。
- (4) 松方冬子『オランダ風説書と近世日本』東京大学出版会、2007年、1～308頁。
- (5) 山本博文『日本史の一級史料』光文社、2006年、1～225頁。

[その他]

[歴史研究部門] 第30回(2008年)角川源義賞受賞、松方冬子『オランダ風説書と近世日本』。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山本 博文 (YAMAMOTO HIROFUMI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：80158302

### (2) 研究分担者

佐藤 孝之 (SATOU TAKAYUKI)

東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：30170757  
宮崎 勝美 (MIYAZAKI KATUMI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：60143533  
松方 冬子 (MATUKATA FUYUKO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：80251479  
松澤 克行 (MATSUZAWA YOSIYUKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：40282529  
(H21年度は連携研究者)

(3) 連携研究者

鶴田 啓 (TURUTA KEI)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：10172066  
保谷 徹 (HOYA TOORU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：60195518  
横山 伊徳 (YOKOYAMA ITOKU)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号：90143536  
小宮 木代良 (KOMIYA KIYORA)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：90186809  
杉本 史子 (SUGIMOTO FUMIKO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：10187669  
杉森 玲子 (SUGIMORI REIKO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：30262140  
箱石 大 (HAKOISHI HIROSHI)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：60251477  
松井 洋子 (MATUI YOUKO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：00181686  
松本 良太 (MATUMOTO RYOUTA)

東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：10209661  
山口 和夫 (YAMAGUCHI KAZUO)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：00239881  
荒木 裕行 (ARAKI HIROYUKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：70431799  
及川 亘 (OIKAWA WATARU)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：70282530  
岡 美穂子 (OKA MIHOKO)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：30361653

小野 将 (ONO SYO)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：70272507  
木村 直樹 (KIMURA NAOKI)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：40323662  
松澤 裕作 (MATSUZAWA YUSAKU)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：20361652